
 *  *
 * 文化財ニュース *

第7号

発行 加古川市教育委員会
 編集 加古川市文化財審議委員会
 加古川市加古川町寺家町39
 TEL ☎ 0242 ☎ 3477

加古川町東溝之口

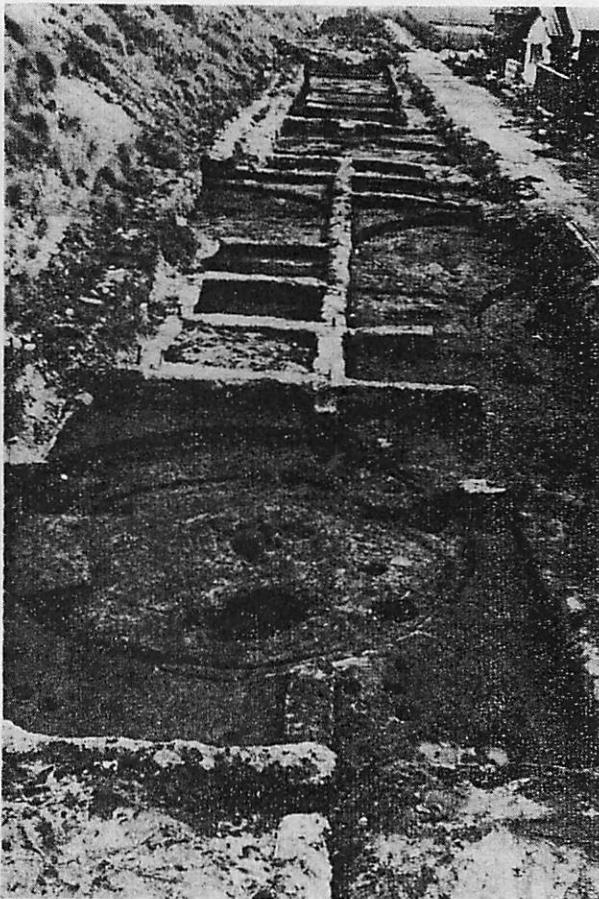
東溝弥生遺跡 発掘調査特集号

昭和43年5月16日から延180日間続けられた加古川町東溝之口の遺跡の発掘調査が去る10月5日に終りました。本号はその成果を特集し、市民の皆様に2,000年前、ここ印南野に栄えたムラのようすをお知らせいたします。

なぜ東溝之口が選ばれたのか 印南野の平野は加古川が長い間かかって運び出した多くの土砂によってできたものです。この平野に一番早く人が住めるようになったのは川より西側の東神吉町一帯で、そこには砂部・西井ノ口等にムラのあとがあります。

川の東側は氾濫がひどかったようで、掘ると川砂や礫の出るところが多いのですが、東溝之口の地域は礫層の上にこまかい粘土が堆積し、小高くなっています。小高いので洪水を防ぎやすく、またまわりに低地がひらけているので水田もつくりやすかったのです。

あらわれた2,000年前の家なみ ムラの範囲は東西約150m、南北200mほどあります。調査したのは北東の部分で幅10m余、長さ180m余だけですが、8軒の家と16本の溝、7基の貯蔵用穴、2基の木棺墓、2棟の高床建築ができました。家はほとんど軒を接しているものもあります。まさしく「溝之口銀座」です。家と家の間には当然、道もあったでしょうし、共通の広場や炊事場、まつり場もあったかもしれません。それらはまだ土の中の中に埋もれているのです。

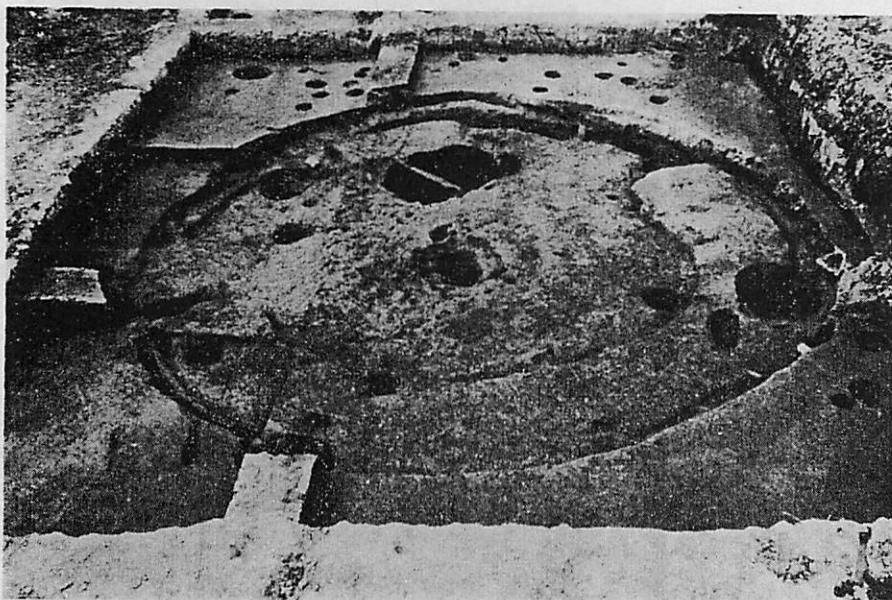


—2,000年前の住居址群—

ベッドをもった家とタコの家 いま近畿地方には、100軒以上の住居あとが知られていますが、家の中にベッド（床の一部を一段高くつくり、寝床とする）をもっているのは播磨の特色です。東溝之口の家にもベッドがあり、となりの播磨町大中の家もあります。これは大和朝廷成立以前の播磨が、一つの文化圏をかたちづくっていたことの証拠であり、「播磨」という地域性がかなり古くまでさかのぼるものであることを示しています。

(裏面へつづく)

一軒の家には大きな貯蔵用の穴がほりこまれていて中に10コのタコツボが入っていました。弥生時代は米づくりを主として行なった時代ですが、このように海の幸、山の幸を求めてくらしていたのです。他の家にはタコツボがなく石斧等だけをもっているところから考えますと、米づくり以外は家によって海へ山へと別々の働きをしていたのかもしれません。これは2,000年以前の生産のあり方を示しており重要です。



—住居址の一ツ—

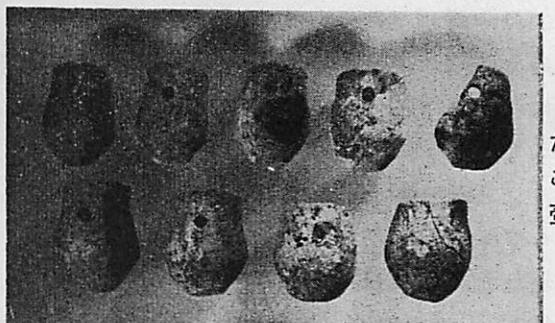
16本の溝のなぞ 東西約180mの間になぜ19もの溝が必要だったのでしょうか？そのほとんどはムラの東端と西端にほぼ南北方向に掘られています。古い溝は弥生時代（約2,000年前）、新しい溝はほぼ鎌倉時代のものです。800年間を通じてこの地域には、つねに溝が必要だったのです。まだムラのすべてを調査していませんのでこれらがムラをとりまいているのか、各家々を囲んでいるか、あるいは水田のための用水路であるのか、わかりませんが、中には奈良時代の土地区画水路（条里制）と同じ方向のものもあり、ムラの構造や条里制の起源、実施規模等を知るのには非常によい材料です。いまはまだなぞのままであり、みなさんによる究明をまっています。

出土品の数々 いま私たちはナベやカマを使って煮たきをし、茶わんや皿を使って食事をしさまざまな機械を使ってものを作っています。2,000年前の人々も同じです。鉄はありませんが貴重品でした。2本のナイフがでているだけ

です。これを補うために石で作った斧、鎌、やり、きりがたくさんあります。茶わんの類はすべて素焼のままで壺、かめなどたくさん出土しています。土器類は年代や地域によって形や文様にいろいろ流行がありますので、たった5cm四方位の大きさのかけらからでも、加古川の人々がどの地域とつながりをもったのかとか、いまから何年位前のものかというようなことがわかることがありますので、大切に扱わねばなりません。

バイパスと2,000年前のムラ 昭和44年、現代、2,000年前のムラの上をバイパスが走っています。交通ラッシュをやわらげるため、建設省はこのバイパスの幅を倍にする予定にしています。もちろんその下には2,000年前の家や溝があるのです。じっさい市民の皆さんには国道2号線の混雑に困っています。だから新しい道路は必要です。かといって貴重な2,000年

前のムラの上を走る必要があるでしょうか。道は古代のムラの上でなくてもできます。



いま、御報告しました東溝之口の遺跡にはすでにバイパスができていますので、これをかえることはできないでしょう。しかしこれから道幅を倍にするときにちょうどバイパスが、道や鉄道をまたいでいるように、2,000年前の家のくらしをまたいで通って行ってはいけないのでしょうか。そうすれば、誰でもいつでも2,000年前の家のくらしを眼の前にみることができます。子供の遊び場にもなります。一度みなさん一人ひとりのこととして考えてみて下さい。